

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892600103		
法人名	有限会社 ケアサポートかさい		
事業所名	認知症対応型 第二グループホーム銀の鈴		
所在地	兵庫県加西市畑町千軒寺46-1		
自己評価作成日	平成30年9月15日	評価結果市町村受理日	平成30年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成30年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症ケアの経験を生かした介護職によるケアと地域や家族との信頼関係をしっかりと築くことが出来ていて最期まで住み続けたいの思いと、体調管理を目的とした訪問診療・歯科往診等の関わりもあり「安心と安全」「医療との連携」早期発見、早期治療に取り組むことができている、ひとりひとりに合わせたきめ細かな対応に取り組んでいます</p>

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成29年9月に新設、小規模多機能と併設されている。廻りは田畑に囲まれている。隣には郵便局が有りわかり易い立地場所である。新設時には第一銀の鈴の評判がよく立地反対も無く設立以来満室になり経営も順調にスタートできている。職員も第一からの異動等により問題なくスムーズに対応出来ている。家族・職員との信頼関係・和もよく出来ており、職員の面接により確認出来ました。医療との連携も良好な関係が築かれており、家族も大変安心されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で馴染みのある環境の中で「一人ひとりの状況に合わせた支援」の理念を職員間で共有し実践している。	年1回の全体会議で、運営理念、運営方針について共有する場を設け、日常的には、職員の名札の裏に記し日々確認しあい実践している。	理念に関して現在再考中です。又掲示がされていず玄関に掲示し職員のみでなく来客にも理解して頂くように期待する。又名札に現在印刷されているが、大きい文字で印刷し朝の朝礼にて確認をして頂きたい
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回のいきいき体操や、高峰神社での秋祭り等を通じて、地域の方との交流が行われている。	2018年8月からスタートしたいきいき体操は、近隣住民約15名+入居者の参加で水/週継続開催しており、その交流が、区長からも高い評価が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設前ではあるが、認知症のテーマで話をする機会があり、理解や支援の方法を地域の人への貢献に結び付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回の運営推進会議が定着し、その中で現状報告や取り組みなどの報告を行い、意見を頂く等サービスの向上に活かしている。	市担当、知見者、区長、家族も出席のうえ、防災訓練、行方不明者検索マニュアル等の検討も議題に掲げ、改善に向けた意見交換をおこなっている。入居者の参加も今後期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と都度サービス上必要な相談、助言をいただいたり、事業所連絡会の参加時に実情を伝えたりして協力をお願いしている。	市長寿介護課と市内4つの事業所で定期的に会議・交流し意見交換をしている。市主催の「RUN伴」の実行委員として活動し、市のテーマ「あったか声かけ作戦」を共に推進する取組をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの取り組みは「身体拘束廃止に関する指針」に基づき拘束を安易に正当化することなく、又言葉や対応等で精神的な自由を妨げることのないように取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを作成し、身体拘束はゼロである。運営推進会議の議題にも掲げ、じっせんしている。道路に面しているため玄関は、オートロックのしつらえとなっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待となるような言動が見過ごされることがないように注意を払い、自らの言動が虐待につながらないように日ごろのケアの見直しを行っている。	ケアマネジャー・看護師・ケアスタッフで毎朝のミーティングを実施し状況確認をしている。人権研修を行い日頃のケアを振り返る機会としている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の基本的視点となる高齢者の権利、人間らしい生活を送ることが出来るよう、認知症であっても尊厳に配慮したケアが受けられるよう支援している。	成年後見人制度利用者は0人。職員向けに外部講師を招いて勉強会を実施し適切なケアが受けられるよう支援している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書に添って説明させて頂き、疑問点や不安に思われる事は納得が得られるよう十分に説明させて頂いている。	管理者が説明し、こまやかなケアについてはケアマネジャーが説明するなど配慮し理解・納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、ご要望シートを活用し運営に反映させている。また外部の助言を聞く機会として「あったか相談員」の受け入れを行っている。	来訪時、シートに記入いただけるよう工夫している。意見等は会議に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からスタッフの意見や提案に耳を傾けている。また月毎の研修会の後など時間をとり、声を聞き入れ反映させている。	毎月の研修会后意見交換の機会を設け運営に反映させている。人事評価等の面談は設けていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当の見直しにより職員がやりがいを持って働けるようにしている。また労働時間や休日の希望を聞き、働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修へ積極的に参加するように働きかけ介護福祉士や、初任者研修等修得するよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会において他の事業所と交流を図るとともに、合同の研修会やイベント等を開催する開催活動を行うことで、ネットワークづくりに取り組んでいる。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談などでニーズをしっかりと把握し、今までの生活が継続できるよう支援し、入居後の生活において不安が軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居直後の面会時等に不安や思いを伺うようにしている。本人のニーズと照らし合わせながら安心して生活していただけるよう支援の方向性を一緒に考えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画書作成前に本人や家族さんの話の中から必要なサービスを見極め、必要な支援について取り組むようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事のお手伝い等得意なことを依頼し行ってもらっている。スタッフと共同で作業し、役割を持つことで自信につながるよう取り組んでもらえる機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからも家族さんとの関わりの時間を大切に頂き、病院の受診や外出等一緒に出掛けることを続けて頂いている。面会時は近況報告を行い、ともに支援を行っていく関係を築いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族さんや近隣の友人や知人、親戚の方などの面会も多い。本人がこれまで大切にしてこられて方との面会時は話やすく過ごしやすい雰囲気作りに努めている。	家族の来訪を心待ちされている入居者も多く、制限はしない。かかりつけ医に家族と受診されたり、お墓参りや、不定期だが、帰宅する機会を設けており、馴染みの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いにお部屋に行き世間話や昔の話等される関係が出来ている。入居者様の性格や相性等把握し、入居様が仲良く過ごして頂けるように座席や話題に配慮している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去された方にはお見舞いに伺ったり、ご家族さんにその後の様子を伺う等の対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察やアセスメントで本人の好きなことや得意な事、困りごと等を把握するようにしている。思いが上手く伝えられない方は表情や日常生活の中で思いを感じ取れるように努めている。	入居前に、本人・家族やサービス提供事業者、担当ケアマネジャー、必要時は医療機関から思いや意向意見をきいている。変化ある時は、家族来訪時報告しプラン変更の確認をし了解をとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人様、家族様からご希望を聞き取っている。今まで関わっておられたケアマネさんや病院等からの情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や状況に応じた生活をして頂けるよう支援している。本人さんの態度や言動、表情等スタッフは観察し理解しながら共有、支援している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様家族様からしっかりアセスメントし、課題やニーズ等をカンファレンスで話し合い介護計画書を作成している。モニタリングでケアの見直しをしている。	入所時に家族・本人・からの要望・かかりつけ医の情報によりプランを作成し、毎朝のミーティングで日々のケアプラン内容を確認し、3ヶ月毎のモニタリング・6か月毎ケアの見直しを行い、プランの変更時は、家族に報告、職員間で共有し現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や過ごし方を記録し、毎日の引き継ぎやもうし送りにて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様より自宅や家族宅への外泊等の希望があれば家族に連絡し、家族さんの状況に応じ対応している。入院が必要な場合は必需品の準備などの支援をしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や地域の方の理解や協力を得て地域行事に参加している。ボランティア来所による踊りや演奏を楽しんで頂いている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族さん同意のもと協力医療機関への受診や、主治医の往診の支援を行っている。急変時等のは、主治医と連携にて救急病院等受診し適切な医療が受けられるように支援している。	月2回、嘱託医の往診あり。入居前のかかりつけ医への受診は家族の協力を得て支援している。必要時は、かかりつけ医と連携し市民病院への受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中で訪問看護師に状況、状態を報告し気になることは相談している。看護師からアドバイスや助言をもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早急に情報提供している。管理者や職員が見舞いに行ったときは、本人様面会後、担当看護師や家族さんと連携を図り、現状の把握に努めている。	車で10分のところに市民病院が位置し、入退院時は、入居者の情報をFAX、持参するなどし医療連携室と速やかに連携を取っている。また面会に赴き、病棟の看護師と早期退院へこまやかな情報交換をとるなどの関係づくりを行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化、看取りに対しての意向の確認を行っている。状態に応じて話し合いを重ね、必要に応じて医療機関者も含めたチームで支援が行えるように取り組んでいる。	入居時、緊急時対応の確認書を取り交わしているが、終末期に向けた方針については、口頭による説明がされている。指針を共有し更なる充実を期待する。	看取りに関して入所時に説明はしているが中途半端で統一されていない。重要事項説明書に看取りに対する指針を明記し本人・家族に理解して頂く様にする。指針書は出来ているので現実に重度化になった時に本人・家族・ドクターホーム間にてよく相談し治療方針を共有了解を得る事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えた初期対応マニュアルに沿って適切に行えるように訓練を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害における支援体制要綱を作成し、災害の際は入居者さんの安全を守り、地域の方の協力を頂き速やかに安全に避難ができるように定期的に避難訓練を行っている。	独自の防災マニュアルに沿って年2回消防署立会いのもと職員・入居者参加で訓練を行っている。訓練内容は、運営推進会議で報告し意見交換を行っている。備蓄に関しても最低限されている。しかし地域の協力は未完成である。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対して馴れ馴れしい言葉使いにならないようにしている。一人一人の思いに沿った支援を心掛けることで個人として尊厳しプライバシーに配慮している。	理念・運営方針に、依頼形の言葉かけと主体的な決定が行えるよう支援すると掲げ、入居者対応に心がけている。ミーティングのなかで、リーダーから職員に声掛けし、意識啓発に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切にしながら、会話の中で希望されることや好きなことを伺い、依頼形と穏やかな口調で伝え、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人さんが自由に過ごして頂けるようにしている。活動への参加も本人さんの意思を優先している。何事も都度本人様に伺い思う思い過ごして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの洋服を選んでいただいている。入浴時は前の日に本人さんと一緒に着替えの服を選んでいる。訪問理容は毛染め、カット、等本人さんに決めてもらっている。一人での身支度など困難な方は声掛けしながら支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや下膳、テーブル拭きなど一人ひとりの動きや、能力に応じ、できることを一緒にしていただくように努めている。	メニューに、入居者の好みのものが反映されている。日々声掛けし、入居者と職員と一緒に準備や片づけをしている。月2～3回は車で15分の商店と一緒に買い出しに出かける。又職員は介助の後同一食を頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量はきちんと把握し必要量が各隣保補できるよう支援している。毎月体重測定も行っている。課題が生じたときは食べやすいように食事形態の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けは歯磨きの方、義歯の方等それぞれに声掛けしている。介助が必要な方はできることはしていただくように声掛け、見守りしている。義歯の洗浄、残渣物の確認も行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけトイレでの排泄の声掛け、同行にて支援している。排泄チェック表の記録でその方の排泄パターンを把握し、定期的に声掛けやトイレ誘導をしている。	夜間は紙パンツの方も、日中は布パンツで過ごせるよう、排泄パターンを細やかに把握し、適切な声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促しながら歩行や体操等体を動かして頂くように支援している。排泄パターンを把握し主治医、看護師と相談しながらコントロールし便秘の予防に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴にて支援している。入浴の声掛けに拒否される方は無理強いすることなく時間を置いたり、曜日の変更をして本人様が気持ちよく入って頂けるよう支援している。	週2回入浴支援を同性介助でおこなっている。拒否される方はほとんどおられないが、無理強いせず、入居者が気持ちよくはいれるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の思いや体調を考慮しながら支援している。好きな時間にお部屋に戻ったり、ゆっくりとご本人さんの習慣を配慮しそれぞれに就寝、お昼寝をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう内服介助は声を出しながら二重チェックしている。薬に変更があったときは注意を払い、内服後の観察を行い異変時は主治医と連携している。医師、看護師、介護職員の連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなことや楽しみ、得意なことを把握し、個々に役割が持てるよう努めている。季節に応じ、花見や紅葉、近くをドライブ等楽しみを持って頂けるよう計画し支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、本人さんの希望に応じて近隣の散歩などを行っている。家族さんの協力で定期的に外出、外食を楽しまれておられる方もいる。自宅に一時帰宅しお墓参りや、お仏壇にお参りされ、好みの衣類などを持って来られる方もいる。	毎日ではないが、近隣の散歩、買い物の支援を行っている。家族の協力も得られ、外出、通院、自宅への帰省、お墓参り、外食等楽しまれている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを回避するため現金の持参は控えて頂いている。必要物品は都度家族さんに連絡し持参頂いている。購入の依頼があればホーム立で替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんからの希望がある時は事業所の電話で職員がダイヤルし取り次ぎをしている。遠方の家族さんから定期的に電話をかけてこられる方もおられ本人さん電話をつないでいる。手紙が届いたら手渡ししている。希望により読む時もある。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや洗面台には季節の花を飾り落ち着いた雰囲気や季節感を味わってもらっている。窓際で日向ぼっこをされ、ご自分の植えた花などを眺めている。リビングには入居者さんが共同で作った作品が飾られている。	リビングから外に出ることもでき、庭で花植えも楽しめる。季節の花がさりげなく飾られ、日光が差し込む居心地よい空間になっている。浴室・トイレも一人でゆったりと使える空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士、気の合った方と話しやすい脊に座られ会話を楽しまれている。テレビの見やすい位置に席を設けるなど工夫や声掛けの支援をしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものを持参していただくように依頼している。筆筒や置物などは自宅で使用していたものを持参される方が多い。本人さんが大切にされている写真や思い出の品物を持参されることで居心地よく過ごせるよう工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込まれるよう支援しており、筆筒、置物、写真、おもいで品物など持参され落ち着いた雰囲気のある居室となっている。新聞を取っておられる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活において自分の部屋が分かりやすいように手づくりの表札をかけている。トイレや浴室等は解かりやすく表示して自立した生活ができるように工夫している。		

基本情報

事業所番号	2892600103		
法人名	有限会社ケアサポートかさい		
事業所名	第二グループホーム銀の鈴		
所在地	兵庫県加西市畑町千軒寺46-1		

【情報提供票より】平成 30 年 10 月 4日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成29年9月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 名	常勤 2名 非常勤 14名	常勤換算3.5名

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨1階建ての1階部分
------	---------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	200 円	おやつ 円
または1日当たり円			

(4)利用者の概要(#####)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	81 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小野寺医院 初田歯科医院
---------	--------------

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念に関して文章を追記中、玄関に掲示をし職員のみでなく、来客者にも理解して頂くようにする。名札の裏に大きく理念を記入し、朝のミーティングの際に全員で確認する。	ホームの理念を玄関に掲示する。職員の名札の裏に理念を明記し、全員の周知と確認を行う	運営理念(改正文) 家庭的な環境の中で地域とともに生活をし、一人一人の状況に合わせた介護により、安心と尊厳のある生活を送って頂けるよう支援する。	1ヶ月
2	33	看取りについての説明は統一されていない。重要事項説明書に明記されていない。看取りに関する指針書をご本人、ご家族、ドクター、ホーム内において共有されていない	重要事項説明書に明記し、終末期に向けた方針や看取りについての方針を記し、ご本人、ご家族の方に理解して頂く。	重要事項説明書への明記、ご本人、ご家族様に対して看取りケアについての説明、同意を得る。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()